

河川土木工事業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物(小)	事故の型	労働者規模
2017	1	11～12	工事現場内の農道で、農業用水路の配管の移設作業をしている時、幅1.2m・深さ1.25m・長さ9.9mの掘削溝内で作業中、直掘りしたため背面の土砂が崩れ、従業員の胸下が埋まった。	62	711	5	30～49
2017	1	11～12	工事現場内の仮設の敷鉄板上で、生コンクリートの打設の監督をしていて、生コンクリート車を誘導している時に、1t土嚢の吊紐が作業ヤード上に露出しており、左足の先が吊紐の輪に引っ掛かって鉄板上に転倒し、左膝を強打し、その反動で左肩部も強打し骨折した。	67	611	2	—
2017	1	11～12	2tダンプの後部上下レバーを作業中、誤って手をすべらして体のバランスを崩し、腰部を強打した。	80	221	2	1～9
2017	1	17～18	自社の土場で改修工事の現場から持ち帰った葦の束（径40cmくらい）をツェグリップ式草刈機を用いて短く切断していた時（処理場で廃棄するため）、エンジンを高速にしていたため、はずみで刃先が左足の方へ回転してきて当たった。	55	139	8	1～9
2017	1	12～13	清掃工水面清掃工において河川内の流木撤去を行う為、潮見の関係から、午前中に現場付近にて待ち合せをして打ち合せを行い、最干潮時に流木に玉掛けを行うという事で、三名で作業待機していた。昼過ぎから作業を行ったが、二名で作業が可能で、胴長のサイズも間違っ	61	713	10	1～9

			残った。玉掛け作業が終わり、陸上に戻ると被災者がいない事に気づき、携帯電話を掛けたが出なかったので、周辺を捜していると、水面にうつ伏せに浮いている被災者を発見した。				
2017	1	9~10	資材置場にて、4トンドンプカーに鉄板積込作業（PC200、アームクレン仕様）中、鉄板1500mm×3000mm×22cmを積込の際、相手方との合図の未確認のため鉄板にて右手首を挟む。	59	212	7	1 ~ 9
2017	1	10~11	片付け作業の時に、クレーン付4t車のセット準備作業中に、自社置き場で足を滑らせて後方に右手から転倒し強打した。しばらく様子を見ていたが痛みが悪化した。	78	416	2	1 ~ 9
2017	2	11~12	工事施工中、現場で発生した伐木・枝等を大型ダンプで運搬作業中、実車にて集積場へ向かう途中、現場に差し掛かったところ、反対車線を走行してきたワンボックス車がカーブ途中でスリップし制御不能な状態で横向きになりそのまま当方車両車線に飛び出してきて、回避するため左へハンドル操作したが間に合わず激突した。相手車両が確認できたころにはスリップ状態でありブレーキを踏んだが効き始めた頃にぶつかった。	38	231	17	—
2017	2	14~15	災害復旧の為の護岸修復作業中、水の流れを一時的に切り替える為の樋と樋を接続する為の特製ビニールシートを設置しようとして水の流れが強かったため、作業に手間取りユンボで樋を押す作業の人間とタイミングが合わず、手を放す前に樋が押されたため、樋と樋の間に指を挟み負傷した。	62	141	7	1 ~ 9
2017	2	8~9	河川工事の現場内にて、場内歩行中、石塊の上へのり（右足）、足をひねり転倒し、右くるぶし脱臼骨折となった。	69	711	2	—
2017	2	16~17	ブロック（435kg）のコンクリートブロック（A）をバックホウ0.25?（1.5t吊：SH75）の吊り上げによるブロックの取付作業中、当時の天候は曇り時々晴れであり、作業箇所上部（工所用道路）には作業指揮者を設置していた。被災者は取付直後のブロックをバールを使用し、方線に合わせようとブロックAを地山側へ微調整を行った。その瞬間	68	523	5	10 ~

			にブロックが被災者にもたれ掛かるように倒れて来た。被災者は胸部付近でブロックを受け止めるような体勢でブロックに挟まれた状態になった。				29
2017	2	15~16	改修工事の工区内にて、工事で使用するブロック材を搬入する為4t車を運転手と同乗者の2名で西側海岸の農道（幅員約3m）を時速約10km走行で南進していたところ、前方不注意により柵などの転落防止措置がない側に左側前輪を脱輪してしまい、そのまま法面を滑るように落下し横転した。上流側の工事のため堰き止められていて水はなく、露出した川底面に車両左側が激突し大破した。その際、運転していた作業員2名（当該被災者）が被災した。	64	221	17	—
2017	2	11~12	民間の農家組合より依頼された堰の修繕工事において、他2名と上下で単管パイプ（2m）の受け渡しを行っていたが、上部で作業していた被災者の足元が滑り、1.5mの高さより下へ飛び降りた。その際に着地点がコンクリートだった為、左踵を骨折した。	59	419	1	30 ~ 49
2017	2	9~10	下水道工事の掘削作業中に中石が崩れ落ち、右足に当たり負傷した。	61	711	4	1 ~ 9
2017	2	15~16	法面にブロックをクレーンにて設置中、次のブロック据付準備を行っていたが、仮置きブロック2段積みの上から転倒した。転倒した原因については、本人も憶えていない。クレーンは、その直前のブロックを吊って据付中であり、また他の作業員も転倒したところを見ていない。	77	611	1	—
2017	2	16~17	土木シートを撤去する作業時、後ろ向きに引っ張っていたところ、敷鉄板の上に残っていた土の塊で、躓き、後ろ向きのまま転倒し、足首を負傷した。	59	417	2	10 ~ 29
2017	2	10~11	河川護岸補修工事現場の環境保全型ブロック積上部でシラス埋戻しランマ転圧時にランマが傾き落ちない様に支えようとしてH=2.5mの場	24	418	1	—

			所からバランスを崩し転落した。転落の際に左足が魚巢ブロックに引っ掛かり足首をひねってしまった。				
2017	3	9~10	河川の護岸工事をしていたとき、斜面にコンクリートブロックを据え終えたあと、立ち上がろうとして身体を左側に捻ったところ、左肩上がりの斜面であったため左脚に負担がかかり、左足膝を痛めた。	37	417	19	10 ~ 29
2017	3	11~12	災害復旧事業下堰用水路復旧工事作業において、パイプ(600Φ×4m)のジョイント水回し作業中、重機で押してパイプの変形を修正しながら作業をしていたところ、安全が確保されていない状態で動かしたため、両足でパイプを押さえていた被災者の右足が堰のコンクリートとパイプの間に挟まれて受傷した。	65	419	7	1 ~ 9
2017	4	11~12	仮締切内1段支保工下の二次掘削箇所で、仮締切鋼矢板に付着した土ベラ落としをしているときに、地上から掘削中の0.7?ロングアームバックホウのバケットと仮締切鋼矢板の間に入りてしまい、被災者の右足がバックホウのバケットと仮締切鋼矢板の間に挟まれ被災した。	25	141	7	30 ~ 49
2017	4	11~12	足場上段部において作業員がアンカー頭部のプレートの取り付け作業を行っていたが、シール材の取り付け忘れがあったため、プレートを一旦取り外そうとしたときに手が滑り、プレートが下に落下して、一段下の足場で作業(清掃作業)を行っていた作業員(被災者)の右手にも落下した。	53	521	4	50 ~ 99
2017	5	11~12	河川内の河岸整備工事現場にて、仮囲いフェンス撤去の為、バックホウにて周囲の雑草除去の為に表土のすきとり作業を行っていた。バックホウを運転していた被災者が、重機から降りようとしてシートベルトを外し、立ち上がった時に突然気を失い運転席より転落し、頸椎を骨折した。	43	142	1	10 ~ 29
2017	6	16~17	工事現場において、工事作業に支障となる左岸側の支障木を根元からチェーンソーで伐採作業中、指示を出していた被災者の方に倒れて来そうになったため避けようとして、誤って後方にある護岸陥没箇所に転落し、左足首付近を骨折した。	54	414	1	1 ~ 9

2017	6	16~ 17	高さ40m、斜度60度程の法面で、鉄筋挿入工のラジコンによる削孔作業中に、5cm径程の石が、発生場所は特定できないが上方から落ちてきて、保護帽を着用していたが、頭部左こめかみ付近に当たった。	44	711	4	1 ~ 9
2017	6	15~ 16	10尺の脚立を使って剪定作業をしている時に、張力のかかったつるを切ったところ、つるが左目に当たり、脚立上でバランスを崩し転落して、右手首と左目を負傷したものである。	44	371	1	1 ~ 9
2017	7	8~9	工事現場事務所横で、バックホウのアタッチメント交換時に、アタッチメントの連結金具が未固定であった箇所に手があたったために金具に挟み負傷した。	25	142	7	10 ~ 29
2017	7	13~14	当該作業場ブロック布設作業に於いて、バックホウ（移動式クレーン仕様）0.5t級にて、横帯ブロック（1.34t）吊上時に、吊荷重心が合わず荷が振れたため、オペレーターが再度吊り直しを行うために吊り荷を降ろしたと同時に、被災者が振れを抑えようと手を伸ばしたところ、降ろした横帯ブロックと地面の接地面が合わずに、被災者の方向へ横帯ブロックが倒れ足が下敷きになり負傷した。	44	372	7	10 ~ 29
2017	7	10~11	幅約4m~5m、水深約30cmの川沿いで、樹高約4m・根元径（切口）8cm~10cmの雑木（柳）を伐採したところ、木が根元からしなっており、伐った拍子にチェーンソーのバーに木が乗り木の重さとしなっている反動で、根元付近についていた左足に向かってチェーンソーが押し戻され、チェーンが回っている状態で左足の甲から足首付近に接触してしまった。	63	139	8	10 ~ 29
2017	7	17~18	作業終了後の帰宅途中、インター付近下り車線にて3人乗車のワゴン車が、ガードレールに衝突した。（詳細）前を走行中のバスを追い越し、さらに前を走行中の乗用車を追い越したところ、タイヤが外れそのような感覚があったためハンドルを左に切ったところ、左のガードレールに衝突し、スピンした。（運転者）	65	231	17	30 ~ 49
			作業終了後の帰宅途中、インター付近下り車線にて3人乗車のワゴン車が、ガードレールに衝突した。（詳細）前を走行中のバスを追い越				

2017	7	17~18	し、さらに前を走行中の乗用車を追い越したところ、タイヤが外れそのような感覚があったためハンドルを左に切ったところ、左のガードレールに衝突し、スピンした。（同乗者）その反動でワゴン車から投げ出され中央分離帯に衝突した。	57	231	17	~ 49	30
2017	7	17~18	作業終了後の帰宅途中、インター付近下り車線にて3人乗車のワゴン車が、ガードレールに衝突した。（詳細）前を走行中のバスを追い越し、さらに前を走行中の乗用車を追い越したところ、タイヤが外れそのような感覚があったためハンドルを左に切ったところ、左のガードレールに衝突し、スピンした。（同乗者）	29	231	17	~ 49	30
2017	7	16~17	プレキャスト側溝pu300を敷設作業中で設置位置の微調整作業をバールを使用して行っていた。被災者はpu側溝の端を両手でもって手元をしていたが、左手薬指先が既設配管に挟まれて負傷した。	51	529	7	~ 9	1
2017	7	13~14	午後の休憩後、休憩所から30m程度離れた自社車両に行った。エンジンがかからず、修理中に手が震えだし、口からアワを吹いて倒れた（警備員談）。当時の気温は35℃、朝から作業を開始し、昼までの作業、主にバックホウを操作し足場材の移動の作業を行っていた。午前中に約30分程度休憩はとっていた。救急車により病院に搬送され、医者より熱中症と伝えられた。	34	715	11	~ 29	10
2017	7	10~11	業用水供給対策工事に伴う、水中ポンプの設置作業において、被災者（運転手）はクレーンによるポンプの据換え作業の無線合図を行っていたところ、急にケイレンを起こし、座り込んだため、直ちに体の冷却処置を行った。	45	715	11	~ 49	30
2017	7	9~10	貯水池工事で岩掘削（火薬使用）にて、クロラードリルを使用した穿孔中に、オペレーターはロッドが閉塞したため一度解消するためにロッドを一旦穿孔中の孔から抜き差しする操作を行った。被災者は穿孔が完了したと思い、孔の入口付近に蓄積された粉で孔が塞がるのを防ごうと手で払いのけようとした瞬間、オペレーターは穿孔が完了し	22	521	7	~ 9	1

			ていなかったため、再開しようとロッドを下げたため、孔とビットに右手を挟まれて負傷した。				
2017	7	11～ 12	作業場で片づけの作業中にあやまって手で動かしていた天然石で指を挟んでしまった。	36	523	7	1 ～ 9
2017	7	14～ 15	張ブロック施工の斜面で法面除草作業中に、草刈機の刃が草以外の小木、竹等に接触し、草刈機の刃先が勢いよく足元付近に跳ねて負傷した。	42	169	8	10 ～ 29
2017	7	15～ 16	工事現場において、仮設ハウスの設置台を組立中に立ちくらみがし、単管に足を取られて躓き、右手をついて、手首を負傷した。	53	611	2	30 ～ 49
2017	9	16～ 17	河川工事でブロックを移動させていた際、ブロックが転がり、笠木ブロックと、ブロック塀の間に手の指を挟まれた。	48	418	7	1 ～ 9
2017	9	11～ 12	河川右岸の間知天端にて伐木・除伐等の作業を委託していた、原材を河床に投下し、河床陸地に引き上げ、トラック積み込みをする為、小型バックホーを使用し作業を行っていた、小型バックホーが河床陸地部移動中、一部地盤の安定しない個所で、重機がバランスをくずし、転倒した、その際、被災者は重機より飛び降り水面に着水したが、傾き転倒してきた重機に水中で挟まり受傷した。	50	142	1	1 ～ 9
2017	10	9～ 10	現場内に仮置きしていた仮設ハウスを約10m移動後、移動予定だった仮設トイレを移動する前に、作業責任者が急用のためその場を離れた。その間、待機させていた被災者と重機材が仮設トイレを吊る準備を始めてしまい、間もなくの事故である。仮設ハウス移設時は作業責任者がバックホウを操作。	68	371	1	1 ～ 9
2017	10	14～ 15	現場へ重機搬送中に、路肩が軟弱ではまってしまい、運搬車両が横転した。	71	221	17	1 ～ 9

2017	10	13～ 14	資材置き場で4tユニックの荷台からφ800パイプの継ぎ手を手卸し作業中、継ぎ手が作業服に引っ掛かり、一緒に転落し左足の大腿骨を骨折した。	45	221	1	～ 29	10
2017	10	16～ 17	工事現場において、ブロック積の床堀作業の掘削後、掘削した箇所で水替作業を行っていた際、石（約30kg）が落下し、左膝下を石と軟弱土に挟まれ負傷したものである。	52	711	4	～ 49	30
2017	10	14～ 15	工事現場にてブロック積の作業中、日頃、持ち上げる時より少し広く持ち上げてしまい、その時に腰に痛みを感じたが作業を続けられるくらいだったので、その日も定時まで作業して、翌日からも出勤していた。	69	523	19	～ 9	1
2017	11	14～ 15	ブロック積工の施工が終わり、ブロック積工の先端にガードケーブル基礎ブロックの設置をしていた。最後のブロックを設置し、バリで微調整をしている時に、バリの先が外れて、バランスを崩して、1.45mの高さから転落して、岩盤に膝をぶつけた。	42	419	1	～ 9	1
2017	11	10～ 11	管理用通路付近にて、河川維持のため除草作業を行う。除草した草木を集めて作業トラックに運搬中に転倒し、腕を負傷する。左上腕骨大結節骨折と診断された。	44	719	2	～ 9	1
2017	11	12～ 13	フェンス補強の作業終了後徒歩にて補助看板（点滅灯）の直しをして、現場出入口へ向かう道中にて一般車両と接触し怪我をした。	33	231	17	～ 49	30
2017	11	7～8	作業前の始業前点検時、バックホウ台船上の左舷側のウインチの乱巻を整えようとした時、安全な体勢で作業を行っていなかった為、被災者がウインチのワイヤーに手を巻き込まれた。	54	169	7	～ 9	1
2017	11	11～ 12	資材置場で路盤材を4tダンプから降ろしている最中、鉦砕の塊が途中で引っ掛かり、手で小さな塊を取り除いたところ、その上の大きな塊が滑り落ちてきて被災者の左手に直撃し負傷した。	51	523	4	～ 49	30
			管理用通路を移動中、雪により滑りバランスを崩し、通路上に尻もち					10

2017	12	14~15	をつき被災した。	47	719	2	~ 29
2017	12	13~14	資材置場にて、矢板およびH鋼（0.3m×0.3m×2.5m）をバックホー（0.25?）を使って移動するとき、左足甲を負傷した。端太角の場所に段差があったため、足がそれより高い所にあったことに気づかなかった。	63	142	7	10 ~ 29
2017	12	11~12	水路工事現場で、バックホウを使用し、L型擁壁の据え付け作業を行っていた。L型擁壁が所定の位置に納まったので、吊りワイヤーを緩めたところ（バックホウのフックに掛けていたかは不明）、擁壁が被災者の方に倒れ、右足に接触し負傷した。L型擁壁の位置合わせをバールで行っていたところ、L型擁壁が倒れ始めたものである。	54	523	5	1 ~ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html